

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2025年
4月11日
第171号



セイヨウナシ (バラ科)

北門から入ってすぐの鉢植えで、白い花が咲いています。食用とする梨には、和梨（ナシの果実）、中国梨（チュウゴクナシの果実）、洋梨（本種の果実）があり、それぞれ同属別種の植物を基原とし、さらにそれぞれ多くの栽培品種があります。本種は洋ナシの栽培品種で、ルレクチエと呼ばれるものです。洋梨は、ヨーロッパの植物療法で、果実を収斂、解熱、鎮静に利用していたそうですが、現在は専ら食用です。漢方医学でナシを基原とする生薬は使用されませんが、中医学ではチュウゴクナシの果実、葉、根を、それぞれ薬用とし、果実（梨）を生津、清熱を目的として咳嗽や煩熱に、葉（梨葉）を利水を目的として水腫に、根（梨樹根）を潤肺、理気を目的として咳嗽や腹痛に対して使用するそうです。

ザーサイ (アブラナ科)

薬草倉の前で、黄色い花が咲いています。2022年2月7日第128号で紹介したカラシナの変種です。茎の基部が大きく肥大している点がカラシナとの大きな違いで、その肥大部を漬物の原料として食用されます。本種の中国語での植物名が榨菜zhàcàiで、これが和名の由来となっています。ややこしいのは、その漬物の食品名も榨菜（ザーサイ）と称するので、文章の中でこの用語が登場してきた時は、植物名なのか食品名なのかを文脈に応じて区別する必要があります。四川省で生産される榨菜は、本種の茎の肥大部に、八角、甘草、三奈、胡椒などと共に発酵させたものですが、その他、各種調製方法の異なる「榨菜」が市販されています。